

津田左右吉物語

第30回

左右吉をとりまく人々

(妙法院門主福井康順博士)

京都の三十

三間堂本坊、

妙法院門主福

井康順博士は、

東洋思想の研

究にユニーク

な境地を開き、

天台宗きって

の学僧といわれました。『学に妥協なし、人に妥協あり』をモットーとし、生前は大正大
学長を勤めていました。

福井博士は、早稲田大学大学院在学中から親しく左右吉のもとで儒教、仏教、道教の交渉史を研究し、学位論文「道教の研究」によってそれまで手をつけられていなかった膨大な道教教典を体系づけ、主要教典の成立年代を明らかにしました。また最澄、法然、『平家物語』などわが国の仏教史、国文学に関する研究論文も数多くあります。連続6期18年間にわたり日本学術会議員でした。

平成2年『福井康順著作集』全6巻が完結し、その出版祝賀会の席で「最後まで勉強を続けたい」と語っていました。平成3年に亡くなりましたが、恩師左右吉の学統を受け継いだ坊さん博士でした。

▶ 左右吉くろつぐで自宅

